

歴史を歩く
愛を歌う

みやけ

歴史と愛の町、 屯倉

奈良県三宅町





聖徳太子ゆかりの地 「三宅の原」

奈良盆地のほぼ中央、東西約3.4km、南北約2kmの奈良県で最も小さな故郷三宅町。四方いづれを眺めても大和国原のはるかかなた、青垣の山々を遠望することができ、飛鳥川・曽我川・寺川の肥沃な流域にひらけて緑豊かな自然環境にめぐまれた田園風景が広がる地域です。

三宅町の歴史は遠く古代にさかのぼり、古墳時代には治水や豊作を祈願する祭器や埴輪が制作され、屯倉開墾の指揮者や在地の群小部族の統率者達のものと思われる周濠を持つ小型前方後円墳などが多数存在します。

また、町の中央を南北に走る聖徳太子ゆかりの「太子道」。その沿道にある屏風杵築神社や白山神社には、当時がしのばれる「太子接待の絵馬」「太子腰掛石」などがあり、万葉ロマン街道として静かなブームをよび、脚光を浴びています。

万葉ロマンの 魅力にふれて みませんか

■目次	1・2
■伴堂東遺跡	3
■古墳をめぐる 瓢箪山古墳	4
■三宅古墳群	5・6
■石見遺跡	7・8
■三河遺跡（三河古墳群）	9
■聖徳太子の足跡	9
■現存する太子道を歩く	10
■屏風と聖徳太子	11
■屏風の清水伝説	12
■国号地名と条里制	13
■あざさ、夏野の恋歌を歩く	14
■あざさマップ	15
■あざさ栽培のポイント	16
■忍性さんに会える	17・18
■環 濠 集 落	19
■水をめぐる歴史	20
■大和川運上図	21
■現在の大和川流域図	22
■三宅の神社Ⅰ	23・24
■三宅の神社Ⅱ	25・26
■三宅の神社Ⅲ	27・28
■野球グローブ・ミットの歴史	29・30
■メモのページ	31
■三宅町プロフィール	32
■三宅町てくてくマップ	33・34

ようこそ！
大好きな三宅町を、
案内します。
一緒に楽しんでね！



伴堂東遺跡

平成11年、京奈和自動車道建設に伴い、三宅町伴堂東側で発掘調査が行われ発見された遺跡です。この場所の開発がはじまったのは古墳時代はじめ頃からとみられ、この時代の墓の跡と土器の出土する穴や川の跡がみつっています。

田原本町唐古・鍵遺跡と同じように、水田耕作をする人々が住み着いた証拠といえます。古墳時代の遺跡からは東海系の土器が一つの穴から500個体以上も完全な形で出土しており、近くの「三河」という地名となんらかの関係があるのかも知れません。

同時期の纏向(まきむく)遺跡(桜井市)では、全国各地からきた人々が居住し、大型の前方後円墳が日本列島で最初につくられ、邪馬台国の都を示唆する説があります。

伴堂東遺跡は、邪馬台国の領域の一部であったか、あるいは、ヤマト王権の屯倉(みやけ)との関連性があるのか、注目されつつあります。



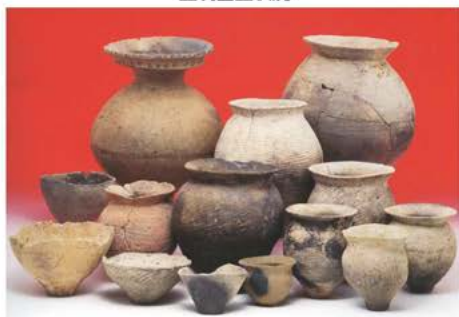
町内に残る
遺跡を
紹介します。



第2次調査航空写真



土坑出土状況



土坑出土土器 (大和系)



土坑出土土器 (東海系)



土坑出土状況



写真提供：奈良県立橿原考古学研究所

古墳をめぐる 瓢箪山古墳

瓢箪山古墳 マップP33 14



日本史では3世紀後半から7世紀前半は古墳時代とされており、三宅町では5世紀後半から6世紀前半にかけて、多くの前方後円墳が築造されました。

前方後円墳は王家の墓とされており、古墳時代を代表するものです。そのような古墳が町内に多く築造された背景には、当時ヤマト政権が地方の豪族に命じて使役として人を集め、三宅町一帯に広がっていた低湿地帯の開発を奨励したとされています。

その開発を主導、管理した人々がこの地に前方後円墳を築いたのではないかと考えられ、ヤマト政権にとってこの地が重要な役割を果たしていた事をうかがうことができます。

瓢箪山古墳は、三宅古墳群に属する前方後円墳で、これまでの調査結果から、全長40m、築造時期は6世紀前半であることが分かりました。

周濠からは円筒埴輪や様々な形象埴輪が出土しており、特に犬形埴輪は、額から鼻先にかけて綾杉文状の線刻が描かれているのが特徴で、このような例は今まで見つかっていません。



犬形埴輪出土状況



鹿形埴輪



犬形埴輪



人物埴輪



犬形埴輪に描かれた線刻



(出土資料は三宅町文化ホールに展示)

前方後円墳とは…

主に、その地方を治める部族の首長や豪族、王族などが様々な副葬品と共に葬られた、古墳時代を代表するお墓です。



円筒埴輪

現在、古墳の多くは大きく削平されており、中には消滅してしまった古墳もありますが、水田の畦道が曲線を描いているなど、わずかにその名残をとどめています。三宅古墳群の本格的な調査はまだ始まったばかりでその詳細は未だ不明確ですが、今後調査が進んでいくにつれて、様々な新しい発見が期待できます。

三宅古墳群

三宅古墳群は磯城郡3町にかけて広がり、5世紀後半から6世紀前半にその最盛期を迎える古墳群です。



前方後円墳を中心に現状18基で構成されていますが、既に消滅してしまった古墳も存在するため、本来はもっと多くあったと想定されます。

三宅町一帯は『記・紀』に垂仁・景行天皇期に直轄地として設置されたとされる「倭屯倉」の想定地である事から、なんらかの関係性が指摘されている古墳群です。そのため、古墳時代中期以降の奈良盆地内における政治・支配体制を知る上でも重要な遺跡として注目されています。



寺の前古墳(屏風) マップP33 11

全長34mの前方後円墳で、周濠の痕跡が良く残っています。過去に盗掘された記録が残っていて、石室の中には土器や武具類が埋葬されていたそうです。築造時期は6世紀前半と推定されます。



茄子塚古墳(屏風) マップP33 10

墳丘は大きく削平を受けており、方墳のようになっていますが、南側の道路が墳丘に沿うように弧状になっていることから本来は円墳と考えられます。須恵器が出土しており、その特徴から古墳の築造時期は6世紀前半とみられます。



高山古墳(伴堂) マップP33 12

全長51mの前方後円墳で、墳丘は大きく削平されています。北側の道路工事の際に多くの円筒埴輪が出土しました。その特徴から5世紀末頃に築造されたとみられます。



アノノ山古墳(伴堂) マップP33 13

発掘調査の結果、後円部を北西に向ける全長50mの前方後円墳であることが分かりました。出土遺物は6世紀中頃以降の須恵器がほとんどで、埴輪は出土していません。築造時期も6世紀中頃以降とみられます。



芝ぞえ古墳(伴堂) マップP33

現状は径約30mの円墳ですが、かつては北側に前方部をもつ前方後円墳でした。また、周囲には周濠の痕跡も残っていましたが現在はなくなっています。出土資料は知られておらず、築造時期は不明です。



黒田大塚古墳 (田原本町)



天王塚古墳(但馬) マップP33 19

径約16mの円墳とされていますが、墳丘全周にわたり大きく削平を受けているため、本来の規模はもっと大きいと考えられます。未調査古墳のため詳細は不明です。

石見遺跡

遺跡は三宅町石見小字玉子の、寺川の左岸沿いの平坦地に造られた古墳ですが、すでに墳丘は削平されています。調査の結果、本来は全長35m以上の前方後円墳と判明し、人物埴輪(椅子にすわる男性、入れ墨の男など)をはじめ、馬形埴輪、鹿形埴輪、この遺跡から初めて出土し、名称の由来となった石見型盾形埴輪や多数の木製品等が出土しました。



人物埴輪(椅子にすわる男性) 高さ約76cm

(現物は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に展示)

開館状況は右記へお問合せください。 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 ☎0744-24-1185



遺跡からはたくさんの土器や埴輪などが見つかっています。千年以上も昔の人達のくらしを現代の私達に教えてくれます。



鳥形木製品



鹿形埴輪



馬形埴輪 (飾り馬)



石見型盾形埴輪 (儀仗形)

写真提供：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



入れ墨の男

三河遺跡(三河古墳群)



三河 3 号墳 写真提供：奈良県立橿原考古学研究所

寺川と飛鳥川に挟まれた微高地上に位置する、弥生時代から中世にいたる複合遺跡です。特に古墳時代後期の円墳2基、方墳3基が確認されており、この一群を三河古墳群と称します。全国的に珍しい二重の周濠を有する円墳(三河3号墳)が確認されており、出土遺物から5世紀後半と推定されます。

また、奈良時代の筆立ての付いた円面硯の一部も見つかりました。筆立て付の円硯は全国的にも出土例は少ないです。硯の円型は12.2cm、高さは約5cmあります。硯の下に台座があり、墨を磨る面の外側に直径約2.5cmの筆立ての部分が付付けられていて約8mmの太さまでの筆が立てられます。



筆立て付円面硯 (レプリカ・三宅町文化ホールに展示)

聖徳太子の足跡



太子を偲び昭和5年この地に聖徳太子が愛馬黒駒にまたがり、屏風を往来される像「黒駒に乗る太子銅像」が建立されました。

(銅像は第二次大戦中、金属類の献納でとりはずされ台座のみ残されています。白山神社境内)

現在の像は平成24年11月に再建されました。

飛鳥時代に聖徳太子が斑鳩宮から三宅の原を経て飛鳥の小墾田宮へ、お供の調子磨おはりだのみやを従え、愛馬黒駒に乗って通われたという伝承があり、その道を「太子道」と呼んでいます。

奈良盆地中央部の三宅町屏風から田原本町保津方面へと一本の道が南南東方向へ斜行して走っている部分が今日に至るまで残っています。この道路が、建築時の壁の補強材の筋違すじかい(に似ているところから「筋違道すじかいみち(須知迦部路)」)とよばれました。

『万葉集』に詠まれている「三宅道みやけち」がこの太子道のこととみることができます。

中世以降は「法隆寺街道」とも呼ばれ生活道路として盛んに利用され、現在では町道70号線として活用されています。また、法隆寺から西南へ、北葛城郡王寺町・香芝市を経て二上山北側の穴虫峠を越え、河内磯長の叡福寺へと結ぶ太子道もあり、沿道には、太子建立四十六ヶ寺に数えられる寺院が多く、太子とのつながりをうかがうことができます。

現存する太子道を歩く

斑鳩から飛鳥までは約
20 kmもあるんだよ。
聖徳太子も通勤は大変
だったんだね！



太子道 (伴堂・融観寺前)

屏風と聖徳太子



はくさんじんじゃ
腰掛石(白山神社)

マップP33 9

聖徳太子が斑鳩から飛鳥を往来され、この地で休憩された時に腰を掛けられたと伝わっています。また、当時村人が屏風を立てて太子を接待したことから「屏風」という地名になったといわれています。



聖徳太子にとって、
三宅は疲れをいやす休憩
の場所だったんだね。



はくさんじんじゃ
駒つなぎの柳(白山神社)

マップP33 9

太子の愛馬「黒駒」の手綱を結わえられたといわれています。現在の柳は平成9年5月吉日に法隆寺より寄贈されました。



びょうぶきつきじんじゃ
太子接待の絵馬(屏風杵築神社)

マップP33 8

屏風杵築神社拝殿内には、村人が太子にお菓子などを献上して、もてなしている様子が描かれている絵馬が残されています。

〈安永6年(1777)9月 奉納〉



びょうぶきつきじんじゃ
屏風の清水(屏風杵築神社)

マップP33 8

太子が屏風村をお通りの時、お供の調子磨ちょうしが飲み水を探しましたが、見つかりませんでした。太子が従者の持つ矢やでこの地をひと突きすると、なんとそこからきれいな水が、こんこんと湧き出てきました。村人はこの清水を「矢尻ノ井戸」と名づけ皆で大切に使いました。

屏風の清水伝説

屏風の里古跡 (屏風の清水由来)

太子伝によると、聖徳太子二十三歳のとき、住まいの斑鳩宮から都である飛鳥の橘宮まで、北西より南東へ真っ直ぐに近道をつけられた。これを飽波間道といいます。この道は、窪田の會部の里、屏風村の清水、黒田の作り屋、小槻の高橋、八木の畦道、中津道、膳村の八坂神社の宮木、豊浦を通っており、太子は日々この道を通われた。この道の距離は五里、太子は、屏風村をお通りのとき、堤でご休憩された。お供の調子鷹が飲み水を探したが、見つからなかった。太子は従者の持っていた矢で、自ら地を打って掘られたところ、冷水がこんこんと湧き出た。太子はこの水で口をすすがれた。

それ以後、太子は、ここを通られたとき必ずこの水を愛飲された。現在も、屏風の清水は絶えずに湧き出ている。

また、この里に頼堅という里人が住んでいて、太子にお菓子を献上し、お疲れを癒した。太子は頼堅のもてなしを大変喜ばれ、仏法に帰依させて出家せしめ、法名を生西と名付けられた。頼堅には子供が七人いたが、皆々朝恩にあずかり、富栄え高い身分についた。これもまた、仏法の恵み、太子を崇敬した故である。

寛政五年

大坂松田三郎右衛門

丑九月吉日

屏風村松好太郎兵衛

安政三丙辰年

二月吉日書ウツス之

聖徳太子(574〜622)という名前は、太子の功績を称えて後世の人々が呼称したもので、生前の名前は厩戸王でした。名前の由来は諸説あり『古事記』では、上宮之厩戸豊聡耳命、『日本書紀』では、厩戸皇子や豊聡耳大王、聖徳などと記されています。叔母の推古天皇のもと、義父であった蘇我馬子と協調して政治を行い、遣隋使派遣、冠位十二階や憲法十七条を制定しました。また、四天王寺・法隆寺など多くの寺院を建立しました。



三宅町の民話 太子道 マップP33 21

国号地名と条里制



条里制とは古代の土地
区画制度のこと。
三宅町には今もその名
残っています。



図1 条里制の土地区画の方法
(平凡社世界百科事典参照)

集落に旧国名(大和・山城・河内等)が
ついたものを「国号地名」といいます。

奈良県内においては、旧国総数66か国
のうち20数ヶ所の国号地名があるとされ
ています。特に三宅町内においては「石
見」「三河」「但馬」の3つの国号地名が
残っています。

国号地名は奈良盆地の平坦部に集中
していることから、大和王権が各地から
農地を開墾するために人々を召集したこ
とによると考えられます。

四角形状の農地の区画を条里制と呼
び、奈良時代につくられました。南北の縦
軸を「条」、東西の横軸を「里」と呼びます。

一条・一里とも六町(654m)でその一
条一里の四方が「里」という単位になりま
す。したがって、それぞれの「里」を○条○
里と呼びます。

奈良盆地の条は、平城京の南から、南
に向かって一条、二条、三条と数えます。
里は三宅町のあたりでは下ツ道から、西
へと一里、二里、三里と数えます。

三宅町の条里は、おおよそ南北は
城下郡路西十二条～十五条、東西は
一里～六里のところに位置します。この六町四
方の「里」を36個の正方形に等分します。その
正方形を「坪」と呼びます。そして順次一の坪、
二の坪、三の坪・ . . と数えます(図1)

図2は屏風の水田の小字名ですが、「五ノ
坪」、「六ノ坪」、「八ノ坪」という地名が、今日ま
で残っていて、古代における農地の管理の方
法をすることができます。三河、石見にも同様の
小字名が残っています。

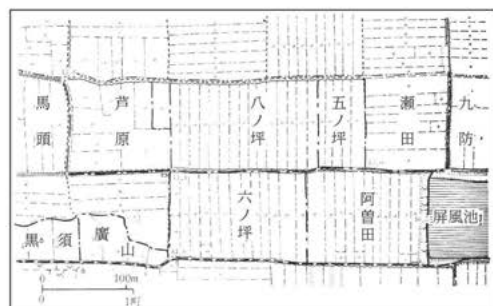
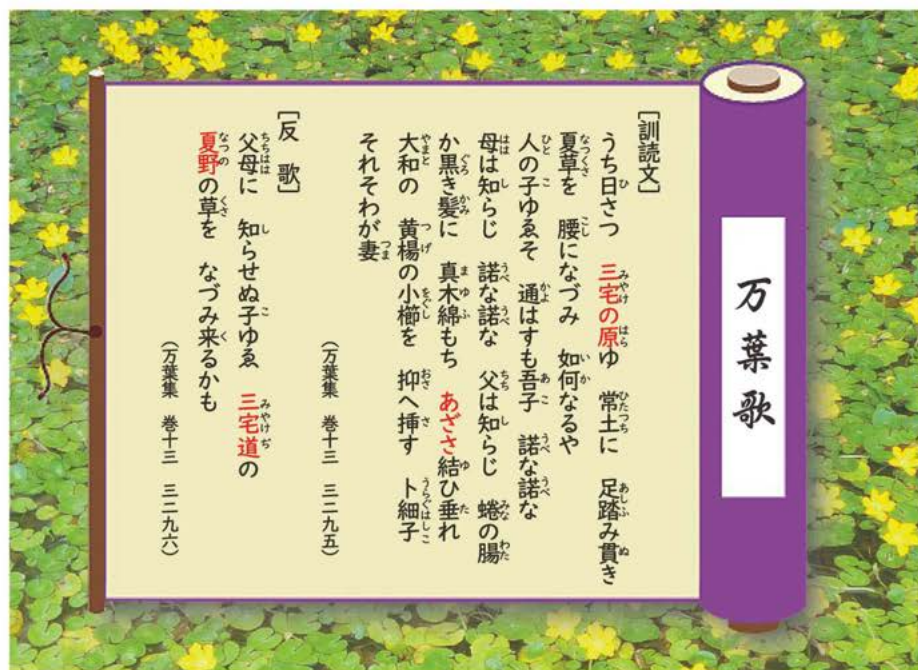


図2 屏風付近の小字名(三宅町史参照)

あざさ、夏野の恋歌を歩く

2019年5月1日に施行された新元号「令和」の出典となった日本最古の歌集『万葉集』がブームになっています。万葉集ゆかりの景観や歌碑が残る**三宅の原**を新元号の記念に万葉さんぽしませんか。



万葉歌

〔訓読文〕

うちひさつ **三宅の原** 常土に 足踏み貫き

夏草を 腰になつみ 如何なるや

人の子ゆゑそ 通はすも吾子 諾な諾な

母は知らじ 諾な諾な 父は知らじ 蟻の腸

か黒き髪に 真木綿もち **あざさ** 結び垂れ

大和の 黄楊の小櫛を 抑へ挿す ト細子

それそわが妻

(万葉集 卷十三 三二九五)

〔反歌〕

父母に 知らせぬ子ゆゑ **三宅道**の

夏野の草を なづみ来るかも

(万葉集 卷十三 三二九六)

〔訳文〕

三宅の原を通り、

地面を一步一步踏みしめ、

腰まで生い茂った

深い夏草をかき分けて、

いったいどんな娘子のために

通っているのかね、我が子よ。

本当にね、

そうでしょうともよ、

父さんも母さんも

知らないでしょう。

豊かな黒髪に木綿で

あざさを結いたらし、

大和産の黄楊の小櫛で

抑え挿している

美しい娘、

それが私の愛する妻です。

両親にも知らせぬ妻のために、

夏野の茂った草に

苦勞して通うことだ。



『万葉集』は、7世紀と8世紀に生きた人々の歌、4500余首が収められ、20巻からなる歌集です。万葉歌碑は平成8年(1996)3月、万葉学者犬養孝氏の揮毫によって言葉の文化財として建立されました。奈良盆地の平坦部で唯一詠まれた万葉歌で、今も変わらぬ「恋心」と「子を想う親心」が詠まれており、当時の情景を想い浮かべる事が出来る恋の歌です。

あざさマップ

「あざさ」は万葉の時代から咲いている古代の花であり、今や準絶滅危惧種です。浅い水辺に「浅く咲く」ことから「あざさ」又は、「朝早く咲く」「朝咲」が転じて「あざさ」になったとの説もあります。

「あざさ」は5月初旬から10月頃にかけて黄色の花を咲かせる多年生水草です。5枚有る花弁の周りにはレース状の襞が多数あり、早朝に咲き昼頃に萎むうえ、朝の気温が20度以上にならないと見る事が難しく「幻の花」とも言われています。



石見新池



三宅郵便局前



万葉歌碑前



万葉歌碑横



役場前



伴堂杵築神社



忍性菩薩御誕生之地石碑



あざさ苑



中央公園

あざさ栽培のポイント

あざさ栽培のポイントは水の管理です。
時々容器の水を溢れさせてリフレッシュを！



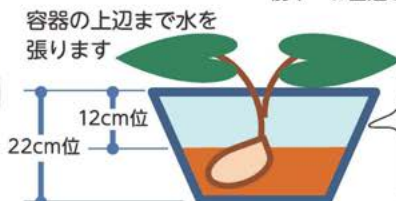
あざさの植えつけ

容器は大きめ・水は多めが、育てるコツです。

水に浮いているように見える「あざさ」ですが、実は土に植えたものを容器に入れて育てるのが基本です。容器は、高さが22cm位で～水量は12cm位が最適です。



花の大きさは五円玉から五百円玉位です。



常時、水が不足していると夏場には水温が上昇過多になり「あざさ」は弱り衰弱してしまいます。
苗の根の土は落とさずそのまま植え込みます。

粘土状の土に植え、日の当たる場所へ

苗の植えつけには、水生植物の栽培に適した田んぼの土が一番。栄養豊富で肥料もいりません。

又は、赤玉土の小粒を砕き、粘土状に固めて使います。「あざさ」は朝に花開き、昼頃に閉じるので、午前中～お昼過ぎまでに日の当たる場所が一番です。

水の管理・株わけ

水替えの手間を省く！ズボラ浄水法

毎日の水やりは不要ですが、水の濁りやボウフラの発生を防ぐために、時々容器に水（一日、日光に当てたもの）を溢れさせます。又、容器でメダカや金魚を飼うのも効果的です。魚がボウフラや藻類を食べ、魚の糞が肥料になって一石二鳥です！



株分けで、あざさの輪を広げよう！

「あざさ」は茎の節から葉、茎、根を出して横に伸びていくので、節と節の間をカットすれば簡単に株分けできます。新しい株は、容器などにトグロを巻くように植えつけます。



茎の葉が三つくらいになったら、節と節の間をカット！

あざさのお手入れカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
開花期								
植えつけ								

植えつけの時期は毎年4月から5月頃、又は10月から11月頃が最適です。開花期は年によって異なります。

夏は土が乾きやすく、水やりのタイミングを誤って植物を枯らしてしまうことがよくあります。そこでおすすめなのが「あざさ」です。水を張ったまま管理するため水やりの手間が要らず、育て方は意外と簡単です。

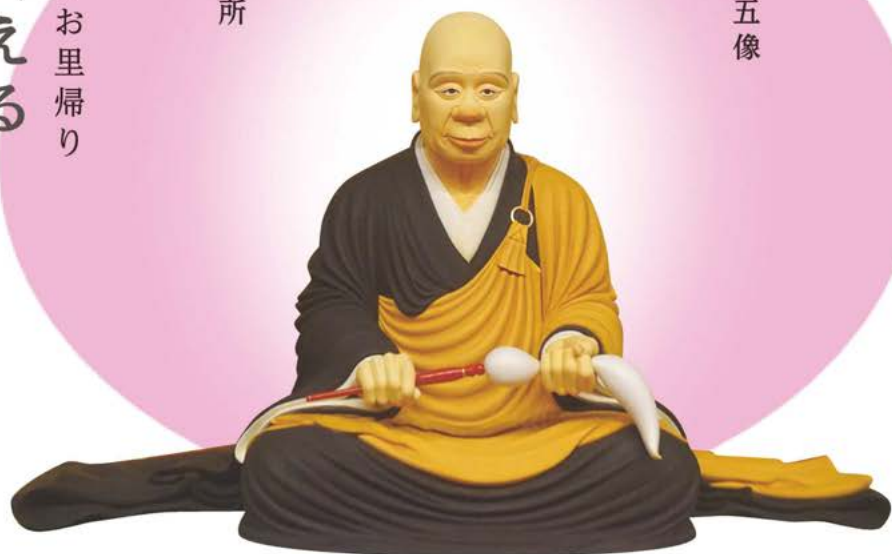
建てた伽藍八十三か所
供養した御堂一五四か所
描いた地蔵菩薩像一三五五像
病人・貧者に与えた衣服

三三〇〇〇着

架けた橋一八九橋
修築した道七十一か所
掘った井戸三十三か所
開いた湯屋・療養所五か所
雨乞い・祈祷数知れず

八百年ぶりの大和へのお里帰り

忍性さんに会える



忍性菩薩坐像(三宅町・屏風 浄土寺に安置) マップP33

鎌倉時代の高僧忍性さんは、健保5年(1217)現在の三宅町屏風に生まれました。

早くに亡くした母の願いをうけて16歳で出家、西大寺中興の祖「叡尊」に師事し、郡山の「額安寺」、奈良の「西大寺」、「般若寺」などを舞台に南都の戒律復興に尽力しました。

特にハンセン病患者を毎日背負って町に通ったという話には、慈悲深く意志の強い忍性さんの人柄がうかがえます。

後半生は活動の拠点を鎌倉に移し、より大規模に戒律復興と社会事業を展開しました。

又、生涯を病者や社会的弱者の救済、道路、橋の修復などに尽力し、多大な足跡を残したことから、我が国の社会福祉事業の先駆者とも言われています。

嘉元元年(1303)、鎌倉「極楽寺」で87歳の生涯を閉じましたが、没後25年を経た嘉暦3年(1328)、永年の功績(カシ)に対して、時の後醍醐天皇から「菩薩」号を下賜されています。

忍性さんの「福祉と和の心」を表すシンボル「折り鶴」
三宅町の心の原点としていつまでも伝えていきたい。



忍性さんの御遺骨は遺言によって、ゆかりの極楽寺（鎌倉市）・竹林寺（生駒市）・額安寺（大和郡山市）の3か所に分骨されています。



浄土寺では絵本『忍性さん～笑顔のお坊さん～』を配布しています。興味のある方は、お気軽にぜひ一度足を運んでみてください。

問 浄土寺

☎ 0745-43-1441



浄土寺・平和の鐘



忍性菩薩御誕生之地石碑

マップP33 7

郷土の偉人「忍性菩薩」が没後 700 年を迎える平成 15 年に向けて、平成 13 年 5 月、ゆかりの地屏風に石碑が建立されました。敷地には、忍性菩薩の功績を讃えた「忍性菩薩頌徳文」も設置されました。

三宅町生まれの忍性さんの「慈愛」と「福祉」の心を後世に引き継いでいきませんか？

平成29年(2017) 6月より、ペットボトル飲料のキャップをリサイクルし、ワクチンや関連機器に換え、発展途上国に届ける「子どもたちを救うエコキャップ運動」に取り組んでいます。

回収場所は、三宅町役場・三宅幼児園・あざさ苑・三宅町商工会・伴堂おかげ会館の5か所です。

忍性さんの会事務局（三宅町商工会）

☎ 0745-44-4628



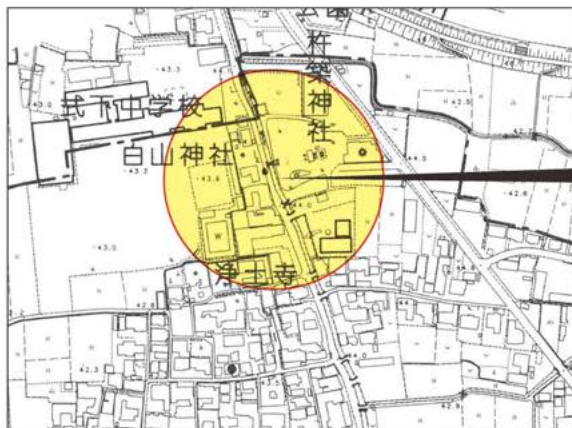
かん とう 環 濠 集 落

戦国時代(15世紀後半から16世紀後半)の頃、集落の周囲に防御の目的で堀をめぐらす環濠集落が奈良盆地の各地にできました。

三宅町では、伴堂、石見、屏風に環濠の跡が、今も残っています。

内部の道路は、敵がまっすぐに進めないように丁字型の遠見遮断となっています。

三宅町では、伴堂、石見、屏風に環濠の跡が、今も残っています。



(現 環濠 屏風杵築神社前)



(現 環濠 伴堂おかげ会館 南側)



水をめぐる歴史

先人達は、いつも自然との
智恵比べの連続でした。



三宅町の民話

雨たんもれ

たど
多度さん

マップP33 22

むかしむかし日照りが続き、稲などの作物が枯れかけ困った村人達が、社をみこしの様に担いで、村の中や畦道をねり歩き、社に水をかけてお祈りをすると雨が降ったというお話です。



三宅の地は奈良盆地のほぼ中央に位置し、古代から稲作の盛んな穀倉地帯でした。これは、曾我川、飛鳥川、寺川が大和川に注ぐ付近の、まさに川の中にある低湿地です。これらの川は流域の地を豊かに育む一方、後背の山地がさほど深くないため、大雨が降れば氾濫を起こし、日照りが続けば農業用水はおろか飲み水も不足するといった側面も持っていました。洪水に備えて人々は堤を築き、水路を発達させて水を制御するための努力を重ねました。また、水不足に備えて溜池を作り、野井戸を掘り、それでも水が不足する時は番水、時水といった水を分け合う水利慣行を編み出してきました。

今では知る人も少なくなりましたが、近世には三宅の地と大坂の間に、大和川を往復する船による貨物の往来がありました。王寺町の亀の瀬を中継地点として下流の大坂側では剣先船(けんさきふね)と呼ばれる船が、上流の奈良盆地で登録した魚梁船(やなふね)と呼ばれる船やその他の私船と呼ばれる船が百隻以上も往来して、大和から大坂へは米や雑穀を、大坂から大和へは干鰯(ほしか)、油粕といった肥料や塩を運んでいました。

大和川は水深が浅いため、魚梁船の船底は平らで喫水は浅く、長さ約15m、幅約

1.5m、約1tの荷物を積み、9枚のムシロを帆にして張っていたといわれています。

大和川から曾我川を遡っては上但馬の先の松本まで、同じく寺川を遡っては田原本町の今里まで上っていました。特に今里は今里浜という荷揚げ場があって盛んに交易が行われ、田原本は当時、「大和の大坂」と呼ばれるほど繁栄したと言います。また、飛鳥川から支流の新川に入った船の荷揚げ場の名残が今も伴堂の民家に残されています。三宅の地は川とともに生き、水と戦い、水に育まれた土地です。

(参考記事 奈良新聞〈大和川物語〉)



川 舟 (所蔵者 川西町教育委員会)

もと川西町結崎の片山家が所有していました。洪水時の避難、救援用として保有されていましたが、平時にも亀の瀬まで農産物を運んだという伝承があります。



大和川運上図



今里のはま船着場跡

マップP34

「今里のはま」は、鉄道交通が発達する明治25年頃まで、大和川船運の寺川筋の船着場でした。慶長年間(1600年前後)に、片桐且元による亀の瀬峡流の開削によって、大坂と大和の物資交易が盛んになり、奈良盆地の物資流通で重要な位置を占めていました。



たくさんの船が行き来していたんだね!



但馬のはま船着場跡

マップP33 20

現在の近鉄但馬駅南東

この辺りは「但馬のはま」とよばれ、大和川船運の飛鳥川筋の船着場でした。大和川河口の堺港から積荷された船は国分を経て亀の瀬をさかのぼり飛鳥川に入って「但馬のはま」まで貨物の運搬が、明治中期まで盛んに行われていました。

水量の少ないときは、「曳き船」をしながら上ってきたといわれています。辰ヶ辻橋の下には綿の実油の水車小屋もありました。

明治25年の鉄道開通により姿を消すにいたりました。

左図：大和川運上図より

(天理大学附属天理図書館所蔵)

現在の大和川流域図



現在の大和川流域図（上図は国土交通省大和川河川事務所のホームページから引用）

大和川は、初瀬川の上流にある笠置山地の都祁野高原を源としています。奈良盆地のまわりの山から流れてくる支流を集めてひとつになり、大阪府と奈良県の間にそびえる生駒山地と金剛山地の境目にある亀の瀬を通して大阪平野に流れ出ます。大阪平野に流れ出た大和川は、南から流れてくる支流を合わせて上町台地を横切りながら西に流れ、大阪湾に流れこみます。

大和川は流れがゆるやかで、曲がりくねっていた為に、川底に砂が溜まり易く、それを取り除かないと、川はしだいに浅くなってしまいます。江戸時代になり、山の木を沢山切るとなると、大雨のときに上流から流れてくる土や砂がさらに増えました。そのため幕府は、何度も川の底を掘ったり、堤防を高くする工事をしましたが、川底の方が両側の田畑より高い、天井川になってしまいう川が多くなっていきました。

そこで、幕府は大和川を付替える工事を宝永元年(1704)の2月27日から始め、毎日約1万人が工事に携わりその年の10月13日に終わりました。これは「大和川の付替え」と言われる歴史的大事業です。(参考記事 国土交通省大和川河川事務所のホームページから引用)

三宅の神社 I

三宅町の神社は、
町民の厚い信仰に
支えられています。



神社の境内はよく整備されていて、篤志家の寄進になる石造物や絵馬などをよく見かけます。三郡神社や三十八柱神社のように多くの祭神を祀る神社もありますが、杵築神社が伴堂、屏風、但馬の三大字にあってそれぞれ須佐男命を祀っています。



三宅町の民話

おうてくれ地蔵さん (石見) マップP34 23

「負うてくれ」は「追うてくれ」とも言われ、災難や疫病・悪霊を追っ払ってくれる地蔵として立てられたのが、日暮れまでに家に帰り、子供の夜遊びをなくす一つの戒めとして、話が転化したものではないかと考えられています。

石見鏡作神社

マップP34 1

(石見) 祭神 石凝姥命

平安中期に著された『延喜式』に田原本八尾の鏡作神社の名が見られ、石見の鏡作神社も石見大字の氏神として古き由緒ある神社です。

鏡作神社の由来は『古事記』にある天の石戸神話に天照大神が天の石戸にこもられ困った神々が相談し、天の香久山の榊の中枝に吊り下げた八尺鏡云々とあります。その鏡を鑄造したのがこの神社の祭神石凝姥命であるため鏡作神社と呼ばれるようになりました。そして鏡作工人の祖神とされています。

白髭神社

マップP34 1

(石見) 祭神は不詳

石見鏡作神社に隣接しており、もともとは鏡作神社の境内社の一社です。

昭和7年3月に建立された鳥居をくぐると、小さい社殿があります。

ご祭神は不詳とされていますが、滋賀県にある元県社白髭神社や、各地に鎮座する白髭明神から考えて、おそらく祭神は猿田彦神であると思われ、その御神徳は道神とされています。



狛犬作者の丹波佐吉は、幕末期に大阪・大和を中心に活躍した石工で、音の出る石の尺八を孝明天皇に献上したところ、天皇より「日本一の石工」との称賛を賜りました。佐吉の狛犬は現在20体確認されており、16体が奈良県内にあります。

伴堂杵築神社

マップP33 5

(伴堂) 祭神 須佐男命

大きく見事な狛犬や、石灯笼の神前型一対にも目をひかれます。境内の方柱状の道しるべの石は、安政5年(1858)に造立されたものです。拝殿に掲げてあった絵馬が十枚ほど別の場所に保存されています。



佐吉の狛犬像



佐吉の獅子像

安政6年(1859)奉献



伴堂のおかげ踊り絵馬

慶応4年(1868)に奉納された「おかげ踊り」を描いたもの三面は、奈良県指定有形民俗文化財の指定を受けた民俗学上貴重な資料です。

復元図が伴堂おかげ会館に展示されています。



巖嶋神社(奥山)

マップP33 6

女神、市杵嶋姫命は古事記では天照大神の次女であり、別名、狭依毘売命と呼ばれており、皇孫、邇邇芸命の養育係として付き添い、立派に成育させたことから、子どもの守護神として敬われています。

また、水の神として祀られ、水運の安全を守り、生きとし生けるものの命の根元である水を司る神とされています。現在の社殿は、昭和47年の台風20号により破損し今は仮社殿です。



神木



三宅町の民話

子護り 奥山(伴堂) マップP33-34 24

女神様をお祀りする村人の願いを叶え、子孫繁栄、子どもがたくさん生まれますようにと、女神様が一本の榎の木にのりうつり、神木として今も祀られています。

三宅の神社Ⅱ



はくさんじんじや
白山神社

マップP33 9

(屏風) 祭神 伊邪那美命

この神社は、太子道に通ずる道路と川を挟んで屏風杵築神社と相対する位置にあります。本殿は石柱をめぐらした柵の中に南面しており、前に小さい狛犬が一對と石柵の外には四角円柱の石灯籠が一基あります。境内奥の表面扁平な大きい石が伝説にいう聖徳太子が法隆寺から橘寺への道中、ここで小休止されたと伝えられる腰掛石です。

又、聖徳太子が乗られた黒駒をつないだ「駒つなぎの柳」があります。



びょうぶきつきじんじや
屏風杵築神社

マップP33 8

(屏風) 祭神 須佐男命

拝殿は総床張りで、歌仙の絵馬などが沢山かかっています。



本殿は形式的にみると古いものでおそらくは、三宅町では一番立派な本殿と考えられます。



おかげ踊り絵馬

伊勢太神宮へのおかげ踊りの絵馬は、慶応4年9月吉祥日に里氏子たちが奉納したものです。

太神宮の旗を立て、40人ほどの人たちが三味線などにあわせて踊りゆく姿は、当時のおかげまいるのにぎわいを偲ぶことができます。



三十八柱神社

マップP33 16

(小柳) 祭神 伊邪那岐・伊邪那美^{いざなぎ・いざなみ}の二神と「宮中奉坐神」三十六神

神社は小柳の西北はずれにあり、三方に周濠をめぐるせています。面積約1,900㎡あり、こんもりとした森になっていて、松の巨樹がひときわ高くそびえています。ご祭神はいわゆる水の神で、ここ曾我川と飛鳥川に囲まれた境内地は水の神を祀るにふさわしい所です。



拝殿のすぐ前に二ノ鳥居があります。弘化4年(1847)宮講中奉献による狛犬一對と同年造立の五穀成就祈願の石灯籠一對が両側にあります。本殿は、伊勢神宮式年造替にあたり、皇大神宮別宮伊雑宮所管社佐美長神社(三重県志摩市磯部町)の本殿を下付された古式な建造物でたいへん貴重なものです。

その経過は本殿、鳥居神門、周囲瑞垣上棟の棟札に「御本殿改造之記」として詳しく記されています。境内左手社務所の辺りに礎石らしき石をいくつか見かけますが、もとここに真福寺薬師堂がありました。堂の跡はちょうど本殿の左手繁みの中にあります。現在、薬師堂は小柳地内の光明寺北東の角に移されて残っています。



仏涅槃図

かつて三十八柱神社の境内にあった真福寺には涅槃会のために寄進された涅槃図がありました。本図の裏書には永正11年(1514)2月29日と記されており、制作年度がわかるものとしては大変貴重であると言われています。

(現物は奈良国立博物館に寄託されています。)



三宅町の民話

雷のおちない神社

マップP33 25

三十八柱神社の神様が、松の木に落ちた神様を助けました。それ以来この神社には、雷が落ちなくなったと言うお話です。今でも神社の松の木に触れば、雷が落ちないと言われています。

三宅の神社Ⅲ



たじまきつき じんじや
但馬杵築神社

マップP33 17

(但馬) 祭神 須佐男命

広い境内に接する薬師堂は、神仏一体となっていたころの古い名残であろうと思われます。入口の石鳥居はずいぶん立派なものであり、境内には鏡池があります。本殿は立派な建造物で、狛犬と石灯籠が一對ずつ奉納されています。本殿に向かって右に多度神社があります。



雨乞いの神様 多度神社 (但馬)

本殿は白木造りで簡素ながら、しっかりした建築で雨乞いの神として信仰されています。社殿をよく見ると、下方に二つの孔があけてありました。干ばつの時には、この孔に長い棒を通して担ぎだし、村を巡った後、お社に盛んに水を掛けて雨乞いをしたとされています。なかなか霊験があらたかであったといわれています。

「雨くだされ多度さん、水田もまっかにやけてるぜ、天にしる気がないもんか。」などという村中の人々が、水をぶっかけたという珍しい風習が残っています。祈願が成就して雨をいただくと、お宮の境内でお礼の相撲が奉納されました。この神社は、享保9年(1724)の『和州式下郡但馬村鎮守宮明細帳』に記録が残っています。



石造十三重塔

境内池畔に立つ石造十三重塔は、元応元年(1319)の造立で、三宅町の石造物としては一番古い貴重な石塔です。



みごおりじん じゃ
三郡神社

マップP33 18

(上但馬) 祭神 志那津比古神・金山彦神・
美津波之女神・火産霊神・波仁山姫神

三郡神社には風神、金神、水神、火神、土神という、われわれの生活に深い関係をもつたくさん^{まつ}の神々が、祀られていますので、村では信仰が厚く、境内はいつも清浄に保たれています。

境内に皇祖遥拝所、明治天皇遥拝所、日露戦役記念碑、百度石などの標石があり、立派な春日燈籠が立ち並び、正面に拝殿と本殿があります。この神社を三郡神社と呼ぶ理由は、おそらく式下、十市、広瀬の旧三郡に関係あるのではないかと考えられています。

志那津比古神は、伊邪那岐・伊邪那美の二神の御子で、一般には風神といわれています。金山彦神は金の神、すなわち鍛冶の神とされています。美津波之女神は水の神で、雨を司る神と考えられます。火産霊神は、火の神で火を防ぐ、かまどの火を守るといわれています。波仁山姫神は土の神とされ、埴安神と同神だともいわれ、家を守り土を司る神とされています。



二ノ鳥居

たくさんの神々が祀られていて、神社の入口に一ノ鳥居が建ち、参道を進むと二ノ鳥居、三ノ鳥居があります。



三ノ鳥居

三宅町の野球グローブ・ミットの歴史

1896 野球グローブ・ミット産業の歴史は、日本の野球の普及発展とその歩みをもにしてきました。日本においてグローブを使い始めたのは明治29年頃の事です。

1921 三宅町において、最初にグローブの生産を行ったのは、大正10年2月頃に坂下徳治郎さん達によって始まったとされています。

昭和に入り終戦以降、野球が日本の国民的なスポーツとして発展していく中で、グローブ・ミット用具の需要が増えるに従って、戦前より三宅町で皮革を扱う職人として技術を習得していた人達が独立してグローブ・ミットの生産を始めました。

1956 昭和31年からは本格的に対米輸出が始まりました。

1970 昭和45年の最盛期には587万個ものグローブ・ミットが輸出されるようになりました。

そして、それにともない生産業者数も飛躍的に増加し、三宅町を中心に桜井市、河合町が主産地となって全国生産量の90%を占めるようになりました。

1971, 1973 その後、昭和46年、48年の2度にわたる通貨調整により輸出が大打撃を受けるとともに、韓国、台湾などで生産される安いグローブ・ミットの輸出におされ、国内生産量が著しく減少しました。

大正初期から昭和の中頃に制作された野球グローブ・ミット

1913～1915年頃に制作された野球用グローブ



1913～1915年頃に制作された野球用グローブ



1915～1917年頃に制作された野球用グローブ



2016 寄付のお礼として贈る「返礼品」の一つに 野球グローブが、平成28年4月より加わり全国から注目を集めています。

ふるさと納税QRコード



2020 最盛期は100軒ほど、現在も20軒近くの業者が存在しています。今日では特別注文品の受注が増えてきており、上級品の製造、小回りの効く生産体制に移行しています。

2018 平成30年8月、3回に渡って朝日放送テレビ「おはよう朝日です」のコーナー「あなたの町を盛り上げ隊」で放送されました。町内の工房が団結し、世界に誇る技術とこだわりを集結させたオリジナルグローブが完成しました。



企画で制作されたオリジナルグローブ



100周年を記念して制作されたロゴマーク

1927～1935 年頃に制作された野球用グローブ



1932～1935 年頃に制作された野球用グローブ



1950～1960 年頃に制作されたキャッチャーミット



三宅町プロフィール

◎人 □ 令和2年8月1日現在 6,811 人

◎面 積 4.06 平方キロメートル

◎町の木 「キンモクセイ」平成6年9月制定

◎町の花 「八重桜」平成6年9月制定、「あざさ」平成21年10月制定

◎地名のいわれ 「三宅（みやけ）」という地名は古代の屯倉に由来します。屯倉とは大王（後の天皇）が直轄に経営する領地のことです。又、万葉集にも**三宅の原・三宅道**と詠まれています。明治22年町村制の施行時に、かつて屯倉がおかれていたという想定から三宅村と称しました。



キンモクセイ



八重桜



あざさ



あざさの花の妖精
みやっぴい

三宅町公式マスコットキャラクタープロフィール

やさしい、無邪気	性 格	やさしい
会った人を幸せな気分にする	特 技	折り鶴
子ども、おじいちゃん、おばあちゃん	好きな人	すべての人
聖徳太子さん、忍性菩薩さん	尊敬する人	忍性菩薩さん
三宅の原	出身地	三宅町
遊ぶこと	趣味	頭
	チャームポイント	頭に咲くあざさ、丸くて大きな鼻



忍性菩薩さんにあこがれる男の子
みやぼう

三宅町の歴史

3世紀後半	三河地方(今日の愛知県東部地方)をはじめ、他地域から来た人が居住(伴堂東遺跡)。
4世紀頃	大和王権の直轄地である屯倉となる(倭屯倉・三宅古墳群)。
5世紀後半～6世紀初頭	石見遺跡と称される前方後円墳が築造される。
7世紀初頭	太子道がつくられる。
奈良時代	大和国城下郡に属する。
平安時代	興福寺の荘園となる。
13世紀半ば	忍性さんが社会福祉活動を行う。
戦国時代(15世紀後半～16世紀後半)	集落の周囲に防御の目的で堀をめぐる環濠集落ができる。
江戸時代	幕府領、郡山藩領となる。
明治7年(1874)	伴堂小学校開設。その後学制の改革などの変遷により昭和22年(1947)に三宅村立三宅小学校となる。
明治20年(1887)	堺県、大阪府などを経て奈良県に所属する。
明治22年(1889)	式下郡の七ヶ村(伴堂・小柳・但馬・上但馬・屏風・三河・石見)が合併して三宅村となる。
明治30年(1897)	磯城郡に所属する。
大正12年(1923)	石見駅開設。
昭和7年(1932)	但馬駅開設。
昭和24年(1949)	式下中学校開設。
昭和41年(1966)	石見遺跡第2次調査時に人物埴輪(椅子にすわる男性)出土。
昭和43年(1968)	奈良県立職業訓練所(現 奈良県立高等技術専門校)開設。
昭和49年(1974)	三宅町となる。
平成26年(2014)	三宅町 町制40周年。
平成27年(2015)	京奈和自動車道 三宅IC開通。
平成28年(2016)	奈良国立博物館、一救済に捧げた生涯—忍性生誕800周年記念特別展。
平成30年(2018)	石見駅前開発完成。

ぐるっと 三宅町 てくてくマップ

コース合計 約12km
(のんびり回って約3時間程度)



河合町

町の民話

三十八柱神社

16

小柳

ローソン



近鉄田原本線

近鉄但馬駅

約200
メートル

約3分



20 但馬のはま船着場跡

約400
メートル

約6分



19 天王塚古墳

約1,400
メートル

約20分



18 三郡神社

約700
メートル

約10分



17 但馬杵築神社
石造十三重塔

約1,700
メートル

約24分



16 三十八柱神社

約1,400
メートル

約20分



三宅町中央公園
15 音の風景「パルモニュメント」

約200
メートル

約3分



14 瓢箪山古墳

約200
メートル

約3分



12 高山古墳
13 アンノ山古墳



地図上の凡例

- 観光ルート (Red line)
- 太子道 (Purple line)
- 主要道路 (Grey line)
- あざさの見所 (Green star icon)
- トイレ利用可能な施設 (Blue toilet icon)

三宅町役場 AM8:30~PM5:15 (土日祝日休み)
中央公民館 AM8:30~PM5:15 (月・祝日休み)
三宅町中央公園 AM9:00~PM5:00 (水曜日休み)
※夜間利用PM7:00~PM10:00 (火・木・金・土のみ)

あざさ苑 ※健康子ども課 AM8:30~PM5:15 (土日祝日休み)
※入浴受付はAM11:00~PM8:30 (月・第3火曜日休み)

あざさ苑内喫茶「みそら屋」では日替わりランチ・軽食もあります。AM10:00~PM5:00
ランチPM0:00~PM2:00予約がおすすめです。
(土日祝日休み) ☎0745-42-2919



みやび



近鉄櫛原線

近鉄石見駅

約200
メートル

約3分



1 石見鏡作神社・白髭神社

約600
メートル

約9分



2 石見遺跡説明看板

約1,700
メートル

約24分



3 万葉歌碑



4 「陽(ひかり)の風景」
石影モニュメント

約300
メートル

約4分



5 伴堂杵築神社

6 嚴嶋神社

約600
メートル

約9分



7 忍性菩薩
御誕生之地石碑

約700
メートル

約10分



11 寺の前古墳

約600
メートル

約9分



10 茄子塚古墳

約900
メートル

約13分



9 白山神社



8 屏風杵築神社

約200
メートル

約3分

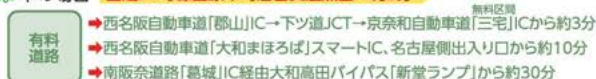
三宅町へのアクセスガイド



鉄道の場合



車の場合 国道24号線田原本町唐古交差点西へ約5分



ボランティアガイドの説明もお楽しみください。

お問合せ



三宅町役場



三宅町HP

〒636-0213 奈良県磯城郡三宅町大字伴堂689番地

【観光・ボランティアガイドについて】政策推進課

TEL:0745-44-3070 FAX:0745-43-0922

<https://www.town.miyake.lg.jp>

【文化財について】教育委員会社会教育課

TEL:0745-44-2210 FAX:0745-43-2870